



© 廣嶋玲子, jyajya / 偕成社

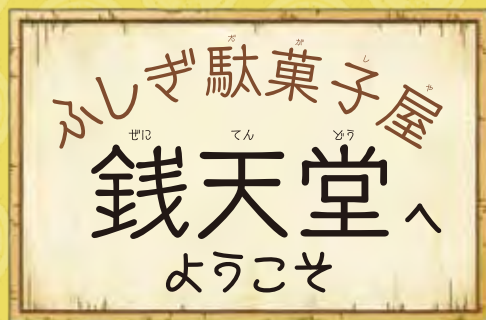
そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

企画展



令和5年7月15日(土)～9月24日(日)

「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」(偕成社)は、作：廣嶋玲子／絵：jyajyaにより2013年から刊行されている児童小説シリーズで、2022年、第3回「小学生が選ぶ! “こゝもの本”総選挙」で、その第一巻が第一位を獲得しました。

銭天堂の店主・紅子が、悩みや望みにぴったりのものをすすめてくれますが、食べ方や使い方を間違えると……。

はたしてその駄菓子は幸運を呼ぶか、はたまた不幸をまねくか?



原画の展示や、作品の舞台を再現する多彩なディスプレイで、銭天堂の世界をお楽しみください。

(写真協力：高知県立文学館)



＊内容・会期等は変更する場合があります。



© 廣嶋玲子, jyajya / 偕成社

つくつく法師を嫌いにならないようになるために

金田一 秀穂

「よし分かった君はつくつく法師である」。池田澄子さんの句。つくつく法師は8月の末から9月にかけて、自分の名前を必要以上な大声で、繰り返し繰り返し叫び続ける。自分がつくつく法師という名前であるとは思っていないだろう。名前は人が勝手につけたことであり、悪意はないのだ。しかし、采れてしまう。特にその時期がいけない、夏休みの終わり頃なのだ。宿題がちゃんとできている人には、あの憂鬱が理解できないだろう。特に、読書感想文。読むの一日、書くのもう一日。残り少ない夏休みの最後の貴重な二日は取られてしまう。もったいない。

読書感想文を書くのが好きだったという人にはめったに会わない。

私は、幼いころからかなりの読書家だったと自負している。多分同じ学年で1・2を争う読書量だったのではなからうか。しかし、あの作文は苦手だった。

そもそも私の読んでいた本は、課題図書にかすりもしないのだった。

「一冊の本」を挙げて下さい、などと言うアンケートがあったりするのだが、答えられない。面接試験で、「愛読書は何ですか」などと聞かれて、どうしていいか答えられなかった。「何度も繰り返して読む本とかあるでしょう」と誘い水で言われるのだが、そこで「国語辞典でしうか」と言ったら、たぶん失笑されて終わる。こういうことを聞く人には、そのような何度も繰り返して読む本があつて、きつと心の糧にでもなっているのかもしれないのだが、そんな恥ずかしいことを初対面の面接官に打ち明けるわけにはいかない。

そもそも一冊の本などありえない。本は、次々と続いて読むものだ。何かの本を読むと、それに関連した次の本をすぐに読み始める。今読んでいる本は、前に読んでいた本の続きであり、次に読む本はこの本のページの後に続いて行くものだ。そこで結局、一冊の本というのは、そうした連続する本の流れなのだ。そのようなことを大岡信さんが書いている。今読んでいる本が一冊の本なのだ。

ともあれ、本は読む。仕事でもある。好きでさえある。ただし、感想文は書けなかった。嘘を書かなくちゃならなくなるのだ。

課題図書がある。誰かが選んだ課題図書は、読むに値する本で、特にこの感想文を読むであろう人は、良書であると思って、子どもたちに勧めてきているに違いない。そのことが分かっている子どもにとつて、書くべき感想は読む前から分かっている。面白かった、感動した、もつと読みたくなった、と書かなくてははいけならしいのだ。

生徒の個性を尊重するという指導者もいるとは思うのだが、信用ならぬ。いい子になりたいと思っている生徒にとつて、心にもないことをするずる書くのは労役でしかない。

そもそも物語とは、最初から最後まで、同じ人が書いていて、最初から最後まできちんと読まなければならない。しかし、わたしが大好きな本は、そういうことがなかった。

私の愛読書は、帝国書院の「世界地図帳」、富山房の戦前版「日本人名事典」、交通公社が出している全国の観光ガイドブック「旅程と費用」、列車の時刻表、動物図鑑、植物図鑑、美術全集、などなど。どうしても感想文が書けるとは思えなかった。

大人になって、こうすればよかったということに気づいた。それで、今も、読書嫌いだという中学生にはヒントを教えることにしている。

図鑑が好き、地図帳が好きという子には、近所の図書館に行つて、出版社の違う同じような本2冊ならべて、その比較をしてみるといい。

例えば動物図鑑、怪獣図鑑。なんでもいいのだが、こういう順番で動物たちがとりあげられているか、それだけで、気づくことがいっぱいあるに違いない。記述量の違いはページ数で分かる。何を大切に思つてその図鑑が作られているか。著者や編集者の意図を推測する。

物語はフィクションである。うそごとである。あるいは伝記。偉い人だから尊敬しなくちゃならない。そういう教育の枠組みにうんざりしている子は多いのではないが、今大人になって、あの頃の私に、どうすればいいか、教えてやりたいと思う。少なくとも、つくつく法師が嫌いにならないで済む。

(きんだいちひでは 言語学者・山梨県立図書館館長)

常設展

特別展示 (展示室C)

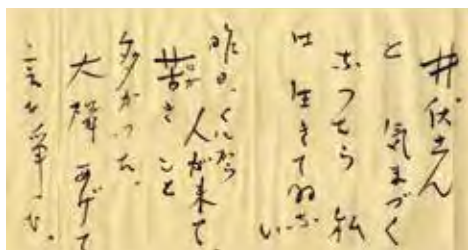
文豪の筆跡 — 館蔵の名品から —

2023年5月1日(月)～6月11日(日)

書は人なり—書いた文字には、その人の性格や人柄が表れるといいますが、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、芥川龍之介、太宰治など、文学史にその名を残した文豪たちは、どんな文字を書いていたのでしょうか。収蔵資料から名品を選び抜き、作家たちの筆跡の魅力をご覧くださいと共に、ひとつひとつにひそむドラマチックな背景を紹介します。



芥川龍之介筆
「諸君は何の為に文章を作るや」



太宰治書簡 井伏鱒二宛(部分)
1936(昭和11)年9月15日消印

第1室～第4室 (展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、太宰治、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介します。
各コーナーの一部資料の展示替えを行います。

常設展 春から夏へ 2023年5月1日(月)～8月27日(日)

第5室 (展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示しています。

前期:小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

2023年5月1日(月)～8月27日(日)

※第5室は8月29日(火)～9月24日(日)まで休室します。

イベントガイド

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、各イベントを延期(または中止)する場合があります。また、内容を変更、入場制限をする場合もございます。予めご了承ください。ご来館前に当館ホームページを必ずご確認ください。

特別展示「文豪の筆跡 ― 館蔵の名品から ―」関連イベント

講演会 文学資料をどう読み解くかー毛筆・ペン・鉛筆の間

5月5日(金・祝) 午後1時30分～午後3時

講師：中島国彦(早稲田大学名誉教授・日本近代文学館理事長)

会場：講堂 定員：150名 参加無料

申込み方法：電話またはホームページの「イベント」欄の申込みフォームからお申込みください。

先着順で定員になり次第締切となります。

以下のイベントの詳細や申込み方法は、今後、当館ホームページやチラシで順次発表します。ご確認の上、お申込みください。

企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」関連イベント

ガラス工芸でサンキャッチャーを作ろう

ガラスに色をつけて、窓辺などに吊すインテリアを作ります。

8月6日(日) 午前の部：10時～11時30分 午後の部：2時～3時30分

講師：深沢和美(ガラス工芸作家)

会場：研修室 定員：各部15名(小学校4年生以上) 材料費：500円

川上健一 小説創作教室(全2回)

県内在住の小説家、川上健一氏による講義・実作指導。2回とも出席できる方、お申込みください。

1回目 6月3日(土) 午後1時30分～午後3時45分

2回目 10月14日(土) 午後1時30分～午後3時45分

会場：研修室 定員：20名 参加無料

三枝浩樹 初心者短歌教室(全2回)

歌人の三枝浩樹氏による講義、実作指導。

2回とも出席できる方、お申込みください。

1回目 7月1日(土) 午後1時30分～午後2時40分

2回目 7月8日(土) 午後1時30分～午後3時

会場：研修室 定員：20名 参加無料



三枝 浩樹氏

小さな本^{ジン}(ZINE) 作り教室

アーティスト吉田朝麻氏による手作り小冊子(ZINE)の制作指導。

7月22日(土)

午前の部：9時30分～12時30分 一人1冊の本を作ります。

午後の部：1時30分～4時30分 一人1ページを担当し、参加者全員で1冊の本を作ります。

会場：研修室 定員：各部20名 材料費：500円

^{ジン}ZINEフェスティバル

県内外から集めた様々なZINEの展示や無料配布を行います。

7月23日(日) 午前10時30分～午後4時

会場：研修室 入場無料

年間文学講座

*講座1、2ともに午後2時～午後3時30分 会場:講堂 定員:100名 受講料:無料
*電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。
各回、申込開始日が異なりますのでご注意ください。

講座1「『源氏物語』『須磨』『明石』巻 —光源氏の挫折と復活を周辺人物との関わりから読む—」

講師:池田尚隆(山梨大学名誉教授)

5月27日(土) 光源氏と「須磨」巻の紫の上	(申込開始日5/13)
6月24日(土) 光源氏と藤壺・朧月夜	(申込開始日6/10)
7月29日(土) 光源氏と左大臣・頭中将	(申込開始日7/15)
8月26日(土) 光源氏と六条御息所・花散里	(申込開始日8/12)
9月30日(土) 光源氏と明石入道	(申込開始日9/16)

講座2「近代文学における「光源氏」的な男たち」

講師:古川裕佳(都留文科大学教授)

5月12日(金) 志賀直哉「児を盗む話」女兒を育てること	(申込開始日4/28)
6月 9日(金) 志賀直哉「暗夜行路」のファミリーロマンス	(申込開始日5/26)
7月 7日(金) 志賀直哉「暗夜行路」の姦通	(申込開始日6/23)
8月 4日(金) 里見弴「多情仏心」の空虚な中心	(申込開始日7/21)
9月15日(金) 里見弴「多情仏心」女性の配置から	(申込開始日9/1)

講座3 当館の学芸員が講師を務めます

6月 4日(日) 高室有子(当館学芸幹)	資料から読む作家の交友
9月10日(日) 保坂雅子(当館学芸課長)	佐佐木茂索の日記を読む

*午後2時～3時10分 会場:研修室 定員:40名 受講料:無料
*電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。
*申込開始日は今後当館ホームページやチラシで順次発表します。

名作映画鑑賞会

8月 5日(土) 西の魔女が死んだ 2008年 監督 長崎俊一 115分

*午後1時30分～ 会場:講堂 定員:300名 無料
*7月14日(金)より電話またはホームページの「イベント」欄の申込みフォームからお申込みください。
先着順で定員になり次第締切となります。

閲覧室

閲覧室では、ご来館いただいた方に、より当館の資料に親しんでいただくため、所蔵している図書、雑誌を紹介する展示を定期的に行っています。企画展・特設展と連動した内容のほか、山梨ゆかりの文学者の資料も紹介します。展示資料は、直接手に取ってご覧いただくことができます。

入場無料



閲覧室資料紹介

「こどもの本のいま・むかし」7月14日(金)～9月24日(日)

山梨の文学者 資料紹介

「村岡花子 生誕130年」6月21日(水)～7月12日(水)

「小林一三 生誕150年」9月27日(水)～10月26日(木)



(令和4年8月～令和5年1月)

- 興石浩一氏より上田三四二書簡など特殊資料12点
- 中嶋淑人氏より「柊雨堂雨話」原稿など特殊資料494点、逐次刊行物5点
- 萩原茂氏より「第8回祥美会文学散歩」パンフレット、逐次刊行物1点
- 竹内正直氏より吉井勇筆「櫻ありき櫻のこときひとありき酔へはよく見る春のまほろし」軸装、図書1点
- 関幸也氏より青山雀亭著「一夜漬責方もちょっと驕される」他原稿など特殊資料9点、逐次刊行物224点
- 中村吾郎氏より台東区立一葉記念館絵はがき、逐次刊行物1点
- 秋元千恵子氏より篠弘著「秋元千恵子歌集『吾が揺れやまず』存在の悔しみ」原稿など特殊資料17点、図書1点、視聴資料1点
- 佐野秀延氏より辻路村筆「秋冷の人の来そうな雨が降る」色紙
- 今井美智子氏より水原秋櫻子筆「明月来相照」額装
- 保坂博司氏よりやまなし文学賞「夏影は残る」挿絵原画など5点
- 雨宮千鶴氏よりやまなし文学賞「この世の果て」挿絵原画4点
- 菊島ちひろ氏よりやまなし文学賞「誤配」挿絵原画25点
- 富田宣夫氏より嵯峨本謡本「あこぎ(阿漕)」など国書4点

次の皆様からも図書・逐次刊行物をご寄贈いただきました。(敬称略)

雨宮慶子	岩崎健二	こまつかん	鈴木聡子	飛田則雄	原きよ	水上和彦
池内規行	内海宏隆	小松トヨ子	高原玄承	中島国彦	廣瀬悦哉	ロバート キャンベル
池田高明	大野とくよ	小山弘明	瀧澤和治	長瀬和美	藤井常文	渡邊孝幸
石割透	奥山眞佐子	櫻沢一昭	出口智之	濃野初美	松下佐智子	渡邊忠子
今井恵子	小谷瑛輔	佐藤吉一	戸澤茂紀	秦恒平	松本章男	

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分
カフェ	午前10時～午後5時 (オーダーストップ午後4時30分)

*営業時間に変更になる場合があります。

休館日(4～9月)

2022年12月1日～4月下旬まで臨時休館(予定)

5月	8・15・22・29日
6月	5・12・19・26日
7月	3・10・18・24・31日
8月	7・21・28日
9月	4・11・19・25日

*館内設備工事のため、4月下旬(予定)まで臨時休館いたします。
再開の日程は当館ホームページでお知らせします。

*工事による休館中のレファレンスサービス(調査相談)および
資料の複写サービスは、電話、FAX、メールにて承ります。

詳しくは当館ホームページをご確認ください。

展示室観覧料

	常設展(特設展・特別展示)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(企画展は県内在住者のみ)、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。
*団体料金は20名様以上の団体、県内宿泊者割引適用。

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。
- 4月の臨時休館中の「施設利用の受付」は館内にて行います。
ご来館前にお電話でお問い合わせください。

交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川団地各行各きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。



Twitterでタイムリーに
情報をお届けしています。

山梨県立文学館

@yamanashi_art_literature_park

ホームページ



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>